

園だより

2024年10月号
2024年10月1日発行



『りゆうがあります』

絵本作家でヨシタケシンスケさんからのメッセージで、ハナをほじったり貧乏ゆすりをしたり、ついついやってしまういろんなクセ。いつもお母さんに注意される「ぼく」は、「大人」を納得させるために、それぞれのクセに「正当な理由」をつけていきます。クセは大人にだってあるし、そんなに目くじらを立てなくてもいいのではないかとそれよりも、子どものかわいいウソを頭ごなしに否定するのではなく、ちゃんと最後まで付き合っあげてくれる余裕こそが、本来の親子関係に必要なものではないだろうか？ということがテーマのひとつになっていると話されています。

私には2人の子供がいます。大分手が離れた低学年高学年のステージになりましたが、明日の持ち物管理や宿題確認、勉強や字の乱雑さ友だち関係などなど本当に仕事と育児の両立に、もたげた頭が床につきっぱなしだったり、我が家だけ母親雷警報発令中は常です。「〇〇やった？」「これが終わったらやろうと思ってる。そんないっぺんに言われても困っちゃう」と息子から言われた事があります。沢山の言葉や要求を投げかけたつもりは私にはありませんでしたが、ヨシタケさんの言う通り、何かをやる事は分かっているけど、やらない、やれないにはその子なりの理由が存在するのだと感じました。

親は常に我が子にこうなってもらいたいという願いをもって生きています。その願いは生まれた赤ちゃんの頃から今日に至るまでこの先もずっと。我が子への願いが強すぎるあまり不安が増大したり急ぎすぎたり子どもにあたりたり時に傷つけたりしてしまいます。私は育児をしながら毎日自己嫌悪に陥り反省の日々です。でも思うのです。私たち親は我が子の事が大好きで大切に愛おしい存在。だからつい必要以上に感情的になったり急かしたり心配になったりするのだと。

小学生に上がるまでは、ひっくり返ったり怒ったり泣いたり毎日、じぶんでやります宣言や手出しお断り令など頭を悩ませる事の連続でしたが、理由がそこにはあるのかもしれない。リアルタイムでそこにある理由を聴くことは難しくても、互いに心が落ち着いた時にどんな理由があったのか思いを馳せてみたり聴いてみると、その先に我が子のびっくりするような成長ゆえの感情に出会えるかもしれません。共に働き育てる保護者のみなさま、毎日本当にお疲れ様です。十分に毎日頑張っておられる心身を一番に大切に守ってくださいね。

我が子を想うあまりに親にだって『りゆうがあります』

副主任 八木優子

すべて重荷を負って苦労しているものは、わたしのもとにきなさい。

あなたがたを休ませてあげよう マタイによる福音書 11,28